



「大学院工学研究科年報2017年度版」刊行によせて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-09-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辰巳砂, 昌弘 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/16041

「大学院工学研究科年報2017年度版」刊行に寄せて

工学研究科長 辰巳砂 昌弘

大学院工学研究科が機械工学専攻、電気工学専攻、応用化学専攻、金属工学専攻の4専攻でスタートして以来今年で65年、現在の工学研究科は6専攻、10分野で構成されています。平成2年に創刊し、28年の長きにわたり工学研究科から継続発行されている本年報は、10専攻10学科時代の工学研究の成果や業績を外部にむけて発信するという地道な努力から始まったものです。現在では、教員の研究活動面での自己点検・自己評価に結びつく重要な刊行物として、また一般社会からも広く有効に活用していただける情報源としてもその役割を果たしているものと自負しております。

本年報2017年度版は、平成29年4月から平成30年3月までの1年間に工学研究科の教員や学生による研究成果を纏めています。教授76名、准教授80名、講師5名、助教32名、合計193名（平成30年4月1日現在）の専任教員、大学院生（博士前期課程・後期課程）および学域4年次生（卒業研究受講生）らによって発表された著書、論文、国際会議録、解説、総説、国際会議や国内会議での講演、新聞・雑誌記事への掲載を網羅的に掲載するとともに、外部資金の獲得状況、学位論文題目、被顕彰者名、海外からの来訪者等を巻末にリストアップしております。

大学の使命は知の創造、知の伝承、すなわち研究と教育が基本であることは言うまでもありません。工学研究科は本学が掲げる「高度研究型大学～世界に翔たく地域の信頼拠点」の中核として、世界を先導する最先端の研究を実践するとともに、高度な研究開発能力を身につけた多くの優秀な人材を社会に輩出すべく日々努力を続けております。その集大成ともいえる本年報をぜひご覧戴き、ご活用いただけるテーマがあれば気軽にお声がけいただければ幸いです。本年報が工学研究科構成員の研究活動における一層の発展をもたらし、産業界においても新しい技術展開のきっかけとなることを祈念して、刊行に寄せる言葉とさせていただきます。

2018年8月